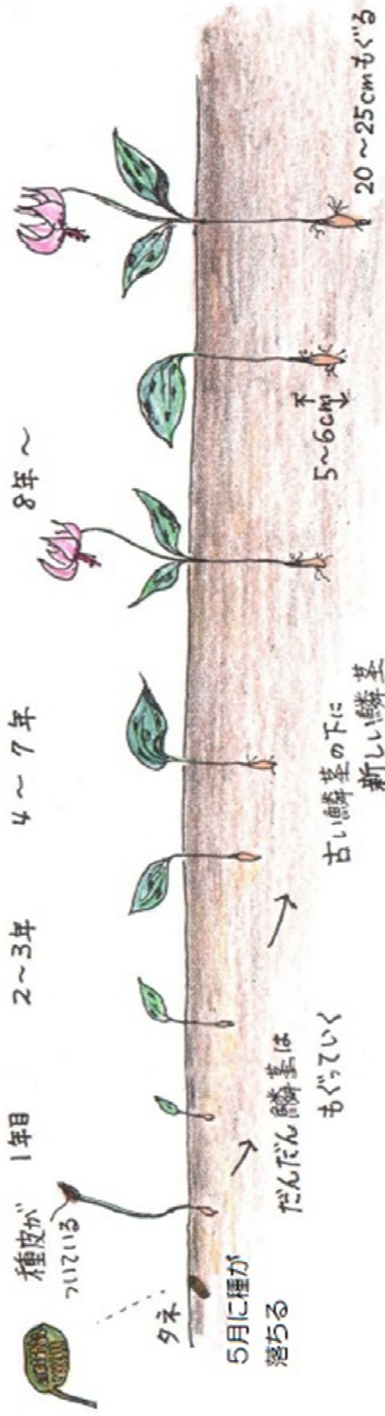




(出典:2008 泉自然公園園ガイドブック)

<https://www.city.chiba.jp/toshi/koenyokuchi/kanri/wakaba/documents/katakuri-life.pdf>

### カタクリの一生



種は次の年の春、松葉のような葉を伸ばして光合成をする。鱗茎に養分を貯めて2週間ほどで枯れ、その次の年になって丸い葉を出す。

毎年少しずつ大きな葉をつけ、養分を貯える。早くて7年目、概ね10年程たってやっと花をつける株になる。花がつく株には必ず2枚の葉がある。

# 野鳥の森カタクリ観察会

2024年5月3日(金) 午前10時

富里森林公園 野鳥の森



主催 仁頃山愛好会



2015年当時には一番大きな花を見せていたカタクリ。  
現在は、丸太階段の撤去に伴いエゾムラサキツツジも整理されたことにより消失してしまいました。  
(2015/05/06)



花がついている株の周りには大小さまざまなカタクリの1枚葉があり、小さな群生地を育ててきたことが分かります。  
(2022/05/07)



2018年ごろはまだこの程度には群生地が広がっていたが、周囲には笹が迫ってきていました。  
(2018/05/06)



双葉になると花茎がその間から真っ直ぐ上がって来ます。  
(2013/05/19)



発芽した1年目のカタクリ。  
1年生はまだ線形の葉のままで、数年かけて、徐々に1枚葉を大きくしていきます  
(2015/05/06)



開花時期が近づくと今度は、頭花を下向きに下げ開花ののを待ちます。  
(2022/05/07)